

第7回国際日本学コンソーシアム「多文化共生社会に向けて」
2012年12月17・18日 於：お茶の水女子大学

日本の大企業における女性管理職の言語使用と意識

アダム・ミツキェウィッチ大学大学院生
お茶の水女子大学大学院研究生 Patrycja DYSZY-CHUDZIŃSKA

最近、日本の社会においても女性管理職の数が徐々に増えつつある。この増加の背景には日本の経済状況だけではなく、女性自体の意識変化もあると考えられる。しかし、日本の企業、特に伝統的な大企業は、まだ男性のスタンダードで成り立っている領域である。そのため、大企業という場は、女性にとってなかなか昇進しにくい環境であったと見られている。ロールモデルがほぼなく、どのように振舞ったら良いのか前例もあまりなく、自分の言語的行動に戸惑っている女性管理職もかなり多いようである。

本発表では、上記のような背景をふまえて、女性管理職自身の話し方に関する意識を取り上げ、さらに海外のデータと比較しながら、言語使用の観点から、この日本の女性管理職の働く現状及び、コミュニケーションのあり方について考える。